

## 不登校生徒の比喩による自己表現の変容

——校内相談教室における教育相談プログラム実施による経過研究——

岡口 す み え\*・金丸 隆 太\*\*

(2008年6月30日受理)

The Change of Metaphor that School Refusal Students Show.  
A Study of Educational Counseling Process in the Junior High School  
Sumie OKAGUCHI and Ryuta KANEMARU

キーワード: 不登校生徒, 比喩, 変容

この研究は、不登校生徒の通う校内相談教室における教育相談プログラムの実施結果を、生徒自身が表現した比喩により考察した研究である。中学校内の相談教室において、不登校生徒を対象とし、相談教室を担当するという立場から、様々な臨床心理学の方法(面接、ワークシート、各種ゲーム、グループワーク、技能・芸術等の活動、ソーシャル・スキルトレーニング、学習支援、その他の活動)を折衷的に用いて教育相談プログラムを構成した。そのプログラムを実施していく過程で自己肯定感アンケートの事前事後の変化、投映描画法テスト・バッテリーの事前事後の変化、ワークシートの分析、観察記録、比喩表現の5つの観点から生徒の変容を考察した。結果、学校に来ることに意味を見出せず休みがちな生徒が、小集団の中で自分を見つめ直し、成功体験や賞賛の言葉を浴びながら過ごし、自分の変容を比喩によって肯定的にとらえるようになっていった。比喩で語られた自分の変容には、独自の世界が表現され、対象者全てにおいて肯定的な表現がみられた。

### はじめに

筆者(岡口)は3年間、不登校解消支援教員として現場に関わり、不登校の問題を抱える生徒達のなかから、「自分は駄目だ」「どうせ出来ない」という言葉が頻出し、彼らが自信を持てずにいることを感じた。そこで筆者らは不登校生徒の自己肯定感を高め、自立した生き方をする人間の育成を目的とする教育相談プログラムを構成し、その効果を検証する研究を行った。教育相談プログラムの効果を検証する方法の一つとして、生徒達に自身の変化を比喩(例え)で表現してもらい、その内容を分析することを考えた。

楠見(2005)など、比喩を検証することの有効性を唱えている者は多いが、例えば石川(2007)は、ピカソの抽象画にみられる比喩(メタファー)を説明し、比喩には第六感での普遍性が関連することを述べて

---

\*取手市立藤代中学校 \*\*茨城大学大学院教育学研究科

いる。また谷口(2003)によると、“メタファーは、抽象的概念を理解し、抽象的推論(abstract reasoning)を遂行するための主要なメカニズム”であり、また“写像は恣意的なものではなく、身体および日常的な経験・知識に根ざしている”という。対象者が用いる比喩を分析する方法は、蔵谷・服部(2002)の看護領域の研究など、あらゆる分野で用いられているが、ここでは偶然表れる比喩を待つのではなく、直接自分の変化を比喩で語らせる方法を取り、比喩分析を最大限に活かせるように計画した。

## 目的

不登校生徒が自己肯定感を高めることを目的に実施した教育相談プログラムによる生徒の変容を、生徒自身が比喩によりいかに表現したかを考察した。

## 方法

X年4月から12月までの間、ある公立中学校の相談教室を利用している生徒(3年生男子1名、女子4名、2年生男子1名女子3名計9名)を対象として、週1回相談教室において筆者(岡口)が教育相談プログラムを実施し、その効果についてのアセスメントを行った。

教育相談プログラムは、面接、ワークシート、各種ゲーム、グループワーク、技能・芸術等の活動、ソーシャル・スキルトレーニング、学習支援など様々な臨床心理学の方法を折衷的に用いて構成した。またアセスメントの方法としては、自己肯定感アンケート、投映描画法テスト・バッテリー、ワークシートの分析、観察記録、比喩による自己の表現を用いた。これらのプログラムについては筆者らによる継続的なディスカッションを基に構成していった。

面接は、教育相談プログラムの一環であり、同時にアセスメントの一環であるが、生徒と面談をする際には、五段階の面接過程を意識し、受容と共感の態度を重視して進めた。

第一段階 自分について語る

第二段階 自分をみつめる

第三段階 自分の行動を振り返る

第四段階 自分の生活を振り返る

第五段階 変容を自分のものとして感じ、比喩を用いてあらわす

上記の五段階のうちいくつかにおいて示された比喩により、生徒の変容を考察した。教育相談プログラムとアセスメントの対象となった9人の生徒のプロフィールは以下の通りであった。

### ①A子(3年生)

教室での人間関係のつまずき。2年生3学期当初頃から男子に色々言われた事に傷つき、あまり関わりたくない、教室に居たくないと思い始めた。

### ②B男(3年生)

不登校。教室で過ごすことが苦痛。集団生活を幼少の頃から好まなかった。人間関係はあれこれと気をつかうので疲れるという。この4月から相談教室に居場所を見つけ、教室には行かず直接相談室に登校するようになった。男子はうざい存在だと思っている。

### ③C男(3年生)

不登校。学校に一人で登校できず、担当教員の送迎で3年生の4月から夕方登校を始めた。

④D子(3年生)

不登校。授業の学習内容もさっぱり理解出来ず、教室で過ごすことが苦痛だという。2年生の3学期に適応指導教室に行ってみたというが、学校の相談室に居場所をみつける。教室に顔を出したり、出られる授業には出たりするがほぼ相談室で過ごす。

⑤E男(2年生)

不登校。教室ではいじめられるからということ。大人とは良いが同年代の子達とはうまく関われない。

⑥F子(3年生)

怠学傾向。教室で過ごすことが苦痛。教室の仲間につきいことを言われたりして傷つき集団生活を避けるようになった。教室の仲間を「あいつら」という表現をするほど心に傷をおったようだった。

⑦G子(2年生)

不登校。人間関係やいじめ。

⑧H子(2年生)

不登校。人間関係やいじめ。

⑨I子(2年生)

教室の友達とうまくいかない。

### 結果

生徒達と面談をする際に、五段階の面接過程を意識して進めた結果、最初の段階では、生徒達が自分について語りたい内容を自由に語った。次に、自分をみつめる作業に入った。そして、第三段階で、自分の行動を振り返り、その時の気持ちどうであったか考えるように援助した。第四段階では、自分の生活を振り返った。最終的に変容を比喻法を用いて自分の言葉で語ってもらった。

以下に、生徒9人それぞれについて、比喻法を中心に行った最終面接の結果を示す。

①A子

自分の変化をもの で例えると	○赤ちゃん→一人歩きするようになった子ども 赤ちゃんのイメージ=抱っこされておっぱいを飲んでいる。誰かにしがみついている 一人歩きするようになった子どものイメージ=親から離れて自由に動き回るようになった
-------------------	---

②B男

自分の変化をもの で例えると	○黒板消し→チョーク 黒板消しのイメージ=ただおいてあるだけ、使われないと意味がない チョークのイメージ=色んな色があって存在感がある、残すもの
相談教室は	○自由、気を使わないですむ(人数が少ないから)
前と変わったと思う ところ	○学校に来るようになった、おおらかになった、友達になんで学校に来ないの〜と聞かれても 言えるようになった。

	<p>○Y 先生を嫌いになった(成績に響いたらいやだから言わない, 侵入されたり人に深く関われ たくない)</p> <p>○成績が上がった, 今まで勉強する気がなかった, プリントとか</p>
印象に残っている エクササイズ	○フルーツバスケット(個人的に身体を動かしたりゲームが好き)

③C 子

自分の変化をも で例えると	<p>○曇り→晴れ</p> <p>曇り=くらい</p> <p>晴れ=いきいきしている</p>
前と変わったと思 うところ	○前より他の人と話せるようになった
変わった要因	<p>○周りの支えがあった</p> <p>○やる気がわいてきた</p> <p>○Y 先生や友達, 親が関わってくれた</p>
相談教室は	○勉強しやすい いやすい 最初は不安だったが今は全くない
相談教室がなかつ たら	○学校に来ていなかったら

④D 子

自分の変化をも で例えると	<p>○古い雑巾→ピカピカのタオル</p> <p>古い雑巾のイメージ=頼りない, 近寄りたくない, 触りたくない, 話したくない</p> <p>ピカピカのタオルのイメージ=前よりよくなった, きれい, 使うのがもったいない</p>
相談教室は	○いやすい, 逆に差別的にみられる, 楽ジャンと思われる
前と変わったと思 うところ	<p>○情緒不安定なところがあったが, 先生に話を聴いてもらっ変わった</p> <p>○安心感がもてるようになった</p> <p>○友達もいる, 教室の友達とは離れていった</p>
印象に残っている エクササイズ	○フルーツバスケット(交流がよかった, クラスではやりたくない) ○作業(菊の苗に名前をつけ て世話が楽しかった)
相談教室の存在感	<p>○学校生活を100%とすると92%が相談教室, 保健室は5%, クラスは3%</p> <p>○自分の生活を100%とすると家が60%, Csの家10%, 相談教室10%, お店10%, 保健室1 0%かな</p>

⑤E 男

自分の変化をも で例えると	<p>○DS→DSライト=新型に, 人に対する思いやりが変わった, グレードアップした</p> <p>○あり→クワガタ=気持ちがでかくなった</p> <p>○レッサーパンダ→パンダ=かわいくなった</p>
------------------	--

	○子犬→犬=大人になった
相談教室は	○いい所, いやすい(誰の目にもとまらないから), 和む
前と変わったと思うところ	○利用する前は教室に行けずにビクビクしていたが今はそれはなくなった。 ○教室はデスタイム ○他の人に何か言われるんじゃないかというようなもやもやしていたが, 多少はあるがなくなった
印象に残っているエクササイズ	○フルーツバスケット(人のことがわかって面白い)
相談教室の存在感	○自分の生活を100%とすると98%が相談教室, 家は2%(妹がいるから)
相談教室がなかったら	○首切って死んでた

⑥F子

自分の変化をもので例えると	○青(寒色)→オレンジ(暖色) 青のイメージ=暗い, あまりしゃべらない, 笑わない オレンジのイメージ=明るい, だんだんしゃべるようになってきた, 少し笑えるようになってきた
相談教室は	○居心地全然いい, 教室と比べ自由, 気持ちが楽になった(教室は居心地が悪い) ○金曜日はいつもと違って人が多いし楽しい
前と変わったと思うところ	○10月の進路希望調査頃から将来の進路について考えられるようになった
印象に残っているエクササイズ	○本を読んだりゲーム(トランプ・ウノ等)をしたこと(教室ではできなかったことができる)
相談教室の存在感	○自分の生活を100%とすると70%が相談教室, 家は30%

⑦G子

自分の変化をもので例えると	○青→オレンジ 青のイメージ=つらい オレンジのイメージ=つらさが薄れた ○雨が降っている空→曇り空
相談教室は	○しやすい(会いたくない人に会わずにすむ), 孤立していいところがある ○相談教室には友達がいる, お互い何かあったという面で言っこないからいい
前と変わったと思うところ	○「友達に何か言われそう・言われたら嫌だ・どうしよう・逃げたい」という気持ちが前はあった ○楽になった ○深く考えなくなった ○前は友達に言われた言葉を深く考えていた。「私が悪いのかな～」と考えたりしていた

	<p>○環境の変化によって考え方が少し変わった</p> <p>○無理して学校行かなくちゃと一人で悩んでいた</p> <p>○無理しなくてもできることがあると思えるようになった</p> <p>○この教室にいることによって将来をみれるようになってきた(家で一人でいると不安だった)</p> <p>○高校進学も考えられるようになってきた,</p>
印象に残っている エクササイズ	○フールツバスケット(個人的に身体を動かしたりゲームが好き)
相談教室がなかったら	○学校には来ていなかったら

⑧H子

自分の変化をもの で例えると	<p>○教科書の厚さが薄くなった</p> <p>厚かった時=こうしなくちゃ、ああしなくちゃいけない</p> <p>薄くなった=まあいいかとあきらめられるようになった</p> <p>*先生や親にがみがみ言われていたがそう言われなくなったことがきっかけかな。</p> <p>○緑色→黄色</p> <p>青のイメージ=つらい、悲しい</p> <p>緑のイメージ=仕事や勉強いろいろ抱えている。緑から青が抜けたのが黄色、楽になった、とらわれなくなった、考えてるけど少しは楽になった</p>
相談教室は	<p>○自由、勉強も自由に自習できる</p> <p>○時間にあまりとらわれすぎない</p> <p>○気持ちが軽くなった、楽になった、来てみて楽しいな~と思った、○教室だと嫌な人に絶対会っちゃう、人の目を気にしちゃう、団体生活だと人に合わせなくちゃというのがある</p>
前と変わったと思う ところ	<p>○利用する前は教室に行けずにビクビクしていたが今はそれはなくなった。</p> <p>○人に合わせなくちゃというのがなくなった、一日嫌な教科や部活が長引いて嫌だ~と思っていたが今はそうは思わない</p>
印象に残っている エクササイズ	○集団コラージュ(みんなでやって楽しかった)
相談教室がなかったら	○G 子さんがこの相談教室に誘ってくれたし、このメンバーがいたから学校に来れている。Is さんがいなかったら学校に来てなかったら

⑨I子

自分の変化をもの で例えると	<p>○もも→りんご</p> <p>もものイメージ=ぐちゃっとしちゃう</p> <p>りんごのイメージ=しゃきつしている</p> <p>○プチトマト→トマト=大きくなった</p>
-------------------	---

## 考察

### ①赤ちゃんから一人歩きできる子に変わった A 子

A 子は最終面接において自分の変化を、「赤ちゃんから一人歩きするようになった子どもへ」と比喻した。おっぱいをのみ、母親にしがみついている赤ちゃんから、一人歩き始めた子への変化をイメージした A 子は、正に今卒業に向けて一人で道を歩き始めたのであろう。よちよち歩きの幼い子は、楽しいものも怖いものも未知の世界である。周りをひやひやさせることもあるだろう。これは精神分析学理論で言われる、口唇期から肛門期に移行した時期と考えられる。A 子は、自分の欲求を即座に満たそうとする場合が観察からも見られたが、ほどよく真面目でほどよくいい加減にする術を獲得したのではないだろうか。

関わり記録によると、新しく相談教室に入った 2 年生達の存在が、A 子を相談教室から保健室、教室へと復帰させることにつながったと思われる。もともと教育相談プログラムに参加することが少なかった A 子は、2 年生達を自らさげ、会話しようとしなかった。「相談教室は心の弱い人がいく場所」と養護教諭に語ったというが、相談教室は 2 年生に独占され、もはや自分の居場所はなくなったと感じたのだろうか。しかし、こういった生徒が相談教室や保健室など、教室以外の何らかの避難場所的ところが学校には必要であると思われる。相談教室があるから保健室は不登校生徒に利用させないというのではなく、その生徒によって自分の過ごしやすい環境を選べることは重要であると思われる。大人が十分関わってあげると、教室に復帰していくのではないかと考えさせられる事例であった。

A 子は赤ちゃんから一人歩きできる子に変わったと比喻したが、教育相談プログラムの何がそういう表現に深く影響を及ぼしたのだろうか。予備調査の段階からしっかりと面接をして、話を聞いたこと、また、問題解決のワークシートが A 子に効果をもたらしたのではないかとと思われる。自分の問題を解決する手順と一緒に 2 回程考えたことにより、その解決法のスキルを身につけ、教室に復帰する方法を養護の先生と考えだしたのである。新しい仲間が入ってきたことにより相談教室を卒業すると考え始め、保健室に拠り所を求めたが、他の職員がいろいろ話しかけるなどしたことも効果があったと思われる。比喻との関連から考えると、他と関わるスキルが乏しい赤ちゃんがそのスキルを学び、周りの手を駆りながら一人で歩くようになったといえる段階に進んだのではないだろうか。

### ②黒板消しからチョークに変わった B 男

B 男は最終面接において自分の変化を、「黒板消しからチョークへ」と比喻した。黒板消しは字を消す道具である。目に見えるものを消してしまう存在である。中はスポンジで出来ており、押すとへこんだりし、チョークの粉末を取り込む。一方チョークは、字などみんなに表現する道具である。チョークに変化したという比喻は、B 男のたくさん表現したい気持ちを表しているのではないかとと思われる。

相談教室に居場所をみつけた B 男は新しく入った 2 年生とも教育相談プログラムと一緒にやって過ごした。金曜日はいほとんど休むことなく登校した。母と別居している B 男は実施者に母の姿を投影していたような言動もみられた。雑談では両親の話が頻繁に語られ、話し相手を相談教室に求めているような感じもうけた。クラスの仲良しの友達からの誘いもあり、選んで授業にも参加したり給食当番などの活動もするようになった。

黒板消しからチョークに変わったと比喻した B 男にとって教育相談プログラムの何が効果があったのだろうか。一番は面接であったのではないかとと思われる。話を十分聴いてくれる場所と時間、相手が相談教室にあったからではないか。比喻表現の変化から考えると、教室に在籍していたもののおかげだった

が、喜怒哀楽の話をするにより、自己アピールをし、相談教室において存在感を感じたのではないかと。チョークの色はいろいろあるように自分の気持ち、喜怒哀楽もその時々で変わりいろいろある。喜怒哀楽をみんなに見えるよう、分ってもらえるよう自己表明するようになってきたのではないだろうか。

### ③曇りから晴れにかわった C 男

C 男は最終面接において自分の変化を、「曇りから晴れへ」と比喻した。C 男は天気の変化によって気持ちの変化を表しているのであろう。曇りはもやもやしているというイメージから、今は高校進学をみつめることができ、すっきりとした晴ればれとした気持ちになったことが伺われる。希望が見え始めたのである。

C 男にとって相談教室は夕方登校してくる場であった。Y 先生の送迎登校より始まり、1 学期最後には自力登校に至った。2 学期になると自分の意思表示が出てきた。今までは人に言われて登校していたが、自分の気持ちで学校に行きたくないと言うようになる。登校日数は少ないが、明らかに「自分」というものが確立され始め、2 学期最後には自分の意思で登校するに至った。

曇りから晴れの天気が変わったと比喻した C 男にとって教育相談プログラムの何が効果があり、どう機能したのだろうか。人の視線が気になり日中の登校ではなく夕方登校を選んだ C 男は学校で勉強することを目的として登校するということから始められた。登校したときは主に学習をしていた。自分の卒業後の道も見えずもやもやしていた天気が、いよいよ受験期に入り、高校進学先も見え始めた。すっきり晴れたというのは、勉強も始め先が見えたからであろう。

### ④ぼろ雑巾からピカピカのタオルにかわった D 子

D 子は最終面接において自分の変化を、「ぼろ雑巾からピカピカのタオルへ」と比喻した。相談教室に来る前の D 子は、人間関係に疲れ、パニック状態を起こしがちな自分を嫌い、ぼろ雑巾で触りたくもないと表現したのである。それがピカピカの新しいタオルになった。新しく肌さわりのよいソフトなタオルは、人にも優しく持ち歩きたいイメージがある。今は人の気持ちも考えられるし、パニックも起こさなくなったと語る D 子は自分でも自らの変容を自覚しているようであった。

ぼろぼろの雑巾からピカピカのタオルが変わったと比喻した D 子にとって教育相談プログラムの何が効果があり、どう機能したのだろうか。面接ではたくさん話をして自分の汚れを洗い出した。ワークシートにより自分のよいところを認めるようになり、新たな自分を見出した。相談教室が洗濯機の役割を果たし、教育相談プログラムという洗剤がぼろぼろの雑巾をピカピカのタオルに変容させたのではないだろうか。

### ⑤DS から DS ライトにかわった E 男

E 男は最終面接において自分の変化を、「蟻からクワガタへ」「DS から DS ライトへグレードがアップした」と比喻した。実際に体格も一回り大きく成長している。E 男は他にもレッサーパンダからパンダ、子犬から大人の犬と 4 つをあげた。より多く自分の変容を言い表し、認めてもらいたいのかのように聞いた。確かに幼い行動から幾分中学生らしい行動に変わりつつある様子がみられる。

DS から DS ライト、蟻からクワガタなど変わったと比喻した E 男にとって教育相談プログラムの何が効果があり、そのプログラムはどう機能したのだろうか。E 男の言動はとてども幼かった。教室でそういった言動を繰り返していたら、友達も離れていくのではないかと考えた。そんな E 男はこの相談教室で各種ゲームやグループワークを好んで率先してやり、存分に自分を出して楽しんでた。どんなことを言ってもやっても受け入れてもらえるこの相談教室で、心の底から笑い、グループワークではルールを覚えたり、自分を語り友達の話聞いていた。この経験の積み重ねが DS から DS ライトにグレードがアップし、蟻からク



ワガタのように大きく強くなったと比喩したのではないかと考えられる。

#### ⑥青からオレンジ色にかわったF子

F子は最終面接において自分の変化を、「青からオレンジ色へ」と比喩した。色で変化を言い表したF子は、自由に描いた絵にもその様子が伺える。青で描かれたお父さんだんごは、怒っている顔の表情だが、オレンジで描かれた赤ちゃんはまだ小さく生まれたばかりで微笑んでいる。ピンクのお母さんは赤ちゃんを見守っているような表情。青のイメージは暗い、あまりしゃべらない、笑わないと言い、オレンジのイメージは明るい、だんだんしゃべるようになってきた、少し笑えるようになってきた、と自分の今の状態を語っているようだった。色のイメージそのものが自分であった。

青からオレンジ色に変わったと比喩したF子にとって教育相談プログラムの何が効果があり、そのプログラムはどう機能したのだろうか。ワークシートをきっかけに自分の辛い体験を語りだしたF子は、誰かに話しかけてもらいたい、誰かに辛さを分ってもらいたいという気持ちを無意識に持っていたのではないだろうか。あの時ワークシートをやってみないかという誘いがなかったなら、クラスの奴らという内に持っていた怒りを聞き取ることは出来なかったであろう。辛い体験の話を聴いた後にはカードゲームで関係を作り、少しずつ相談教室の仲間と遊べるようになってきた。ゲームの持つ重要な役割を感じた。

#### ⑦雨から曇りになったG子

G子は最終面接において自分の変化を、「雨から曇りへ」と比喩した。G子も自分を色と天気で言い表した。友達を避け、抑うつ状態だったことは雨という天気から伺え、その時はとても辛かったのだろう。今は相談教室に安らぎをみつけ、辛さもうすれ穏やかになってきたのではないだろうか。

G子は10月にほぼ1ヶ月間喘息で欠席した。喘息は小学校時にもあり、長期欠席をしたというが、この欠席の間には心の葛藤があったのではないかと考えられる。1学期下旬に欠席しがちになり、終業式当日から相談教室に来るようになる。9月も相談教室に来ていたが、精神的な疲れもでたのではないかと。1ヶ月十分休み、考え方も少しずつ変わっていたと思われる。これは最終面接でも「無理して学校に行かなくちゃと一人で悩んでいたが、無理しなくてもできることがあると思えるようになった」と語っていることから推察できる。

青からオレンジ色、雨から曇りの天気が変わったと比喩したG子にとって教育相談プログラムの何が効果があり、そのプログラムはどう機能したのだろうか。G子の場合、教育相談プログラムというよりも、相談教室の存在がとても大きかったのではないだろうか。友達とのいさかいで教室に居るのが辛く、逃げたいと思っていたところ、孤立していい場所が相談教室であった。あの時の辛さは相談教室にくることにより、薄れたのではないだろうか。しかし曇りであって晴れではなかった。彼女にとってまだ途中の段階なのか、あるいは曇りぐらいがちょうどいいのかはわからない。

#### ⑧分厚い教科書から薄い教科書に変わったH子

H子は最終面接において自分の変化を、「分厚い教科書から薄い教科書へ」と比喩した。教科書の厚みが薄くなったこと、色の変化で表現。やることがたくさんあった厚みのある教科書が薄くなったことで気も楽になったのであろう。また、色の三原色の原理を説明に入れて、緑から辛いイメージの青を抜くと黄色になると言った。H子は気も楽になったと同時に明るく快活的にもなったように見て取れる。

H子は、「～ねばならない」という観念にとらわれて、自分に厳しくしていた。その枠がこの相談教室で過ぎていくうちに緩んできたように思われる。教室では時間に縛られていたが、相談教室は自分のペースで自由に過ごせるという所で、自分はここでそうしていいのだというように変わったようだ。G子と時期を

同じくして登校を渋る日もあったが、休みたいときは休むと言えるようになった。体育の授業も見学ではあるが、友達の誘いで行けるようになったことも、変化の一つであった。

教科書の厚さが薄くなった、緑色が黄色になったと比喻したH子にとって教育相談プログラムの何が効果があり、そのプログラムはどう機能したのだろうか。相談教室の自由な雰囲気は効果をもたらしたと考えられる。教室では時間ごとに授業が生まれ、理解しなくても授業は進んでいく。係の仕事も決められ、責任を持ってこなさなければみんなに迷惑をかけてしまう。こういう思いが分厚い教科書として比喻されていたと考えられるが、相談教室の教育相談プログラムは自由である。選択肢も与えられている。自分のペースで自分の思い通りに過ごせる雰囲気が薄い教科書へ変えたのではないだろうか。仕事や勉強をやらねばならないという重荷をこの教室で降ろし、楽になったことが色の表現からもとらえられる。

### ⑨桃からりんごに変わった事例I子

I子は最終面接において自分の変化を、「桃からりんごへ」と比喻した。つぶれやすい桃から、しゃきつしたりんごに喩えたI子。桃はちょっとした衝撃でもすぐに痛み、腐ってしまう。以前は友達関係に悩み、それが腰痛という不調に現れていた。ちょうど傷んだ桃のようだったのだろう。りんごは多少の衝撃にも強く、日持ちもする。ほど良い酸っぱさもりんごの魅力である。歯ごたえもしゃきつとしている。多少の衝撃とは、友達とのいさかにかもしれない。そういったいさかにもめげない強さを持ったのであろう。ただ皮をむいた後塩水に漬けないと赤くなってしまう。学校では皮をむかない姿で生きているのであろう。

I子は上手に相談教室を利用し、教室に復帰して行ったのではないかと考えられる。2学期の前半で、相談教室の教育相談プログラムの特にグループワークに参加し、どんなことを表現しても受け入れられてもらえるという空間で存分に自己を表現したのではないかと考えられる。今まで教室でやって批難を浴びていた事を、この相談教室でも出していたのではないかとと思われるが、少人数の間での自分の行動のため、周りの反応がよくわかる。自分のとった行動を振り返る機会ともなったのではないかと。今も体調不良で保健室を利用することもあるが、相談教室で過ごすことはほとんどなくなっている。逆に、G子やH子を授業に誘うなど、パイプ役を担うようになってきた。復帰していくI子の存在は、相談教室の生徒たちにとっても刺激的な存在である。

桃からりんご、プチトマトからトマトに変わったと比喻したI子にとって教育相談プログラムの何が効果があり、そのプログラムはどう機能したのだろうか。グループワークと学習支援が効果的であったように思う。グループワークでは、発言力やまとめる力もあり、リーダー的な役割をすることが多かった。みんなからそういった才能を認められ、徐々に元気になっていった。もともと活発だったと思われるI子は、その活発さが裏目にとられ、時に人の気持ちを考えずに自分ののりで行動してしまい、友達からはずされていったと担任から聞いているが、相談教室において同じ事を繰り返すのではなく、人の気持ちを考えながら自分を出していくスキルをグループワークの中で身につけていったと考えられる。友達からはずされて心を痛め、ちょっとした刺激で傷つきやすくなっていたI子は、このグループワークの積み重ねによりみずみずしいしゃきつしたりんごのように変わっていったと思われる。

生徒と面接者との関係が成立すると、生徒は自分から語り始める。面接で生徒の話す内容をじっくり聴いていくと、親や先生には話さないような事を話してくれるようになってきた。また、自分の話を話したくてしかたない様子も多く見られた。家では話し相手もない生徒が半数以上おり、会話に飢えているのではないかと感じられた。我先に話を始めたり、友達が話しているときに割り込んで自分の話を始める生

徒もいた。そういった相談教室での面接は生徒にとっては、自分が受け容れてもらえる時間となったのではないかと思われる。

相談教室において一人一人との面接時間をとることは意外に困難である。こちらが話を聴きたいと思っても、他のメンバーが「みんなで~しよう」ということもあった。少人数とは言え多いときは7人が同じ教室にいれば、個別的な面接時間を確保するのは困難である。面接以外のプログラムは、面接者と生徒との関係を作り、面接を進める前提となるものであるが、相談教室における現実として、直接には個別の生徒との面接時間を確保する上での障害となる。相談教室においていかにして個別の面接時間を確保するかが、実践的には課題となる。

比喻はまさに生徒自身の視点で表された、自身そのものであり、筆者の思いもよらない一人ひとりの変容表現が受け止められた。生徒9人全てにおいて自分を肯定的に表現している単語があげられた。ある者は小さいものから大きいものへ、またある者は、悪いものから良いものへと言葉が変換した。何らかの面で自分を肯定し受容する態度が、これら比喻表現に現れているのだろうが、この変化に効果を及ぼしたのは一体どういう教育相談プログラムからなのだろうか。ひとつのプログラムが特に効果を及ぼしたとは言えない。トータル的でかつ、“長期的継続的な支援(松原, 2003)”が効果を及ぼしたと考えられる。

飯島(2007)は心理療法中に表現される比喻について、対象関係論の観点から考察しているが、あるクライアントの比喻について“自分ではないものについて語りながら裏では自分のことについて語っていた”と考察している。比喻にはこのように、自分のことを距離を置いて語るができるという効果もある。今回のプログラムにおいて比喻で語る機会を与えたことは、結果的に自分について柔らかく語る機会を与えたことにもなっただろう。自分を何かに喩えさせる過程そのものに心理療法の効果があったとも言える。全ての生徒が肯定的な比喻を用いた背景には、実施者が面接を直接行うことによるおこるピグマリオン効果、あるいは単に「自分をよく見てもらいたい」という期待があることも忘れてはならないことであるだろう。しかしそれも心理療法の一部と見なすこともできる。

比喻の特徴をみると、前と後の比喻にあげた単語は、例えば蟻からクワガタのように同じ昆虫同士“類似性(楠見, 2005)”をもっていることがあげられる。他に色から色、天気の変化、果物同士など、物体の持つイメージと自分を重ねて表現していた。

## おわりに

本稿においては、不登校生徒の通う校内相談教室担当者の関わり方において、教育相談プログラムの実施結果としての変容を生徒自身が比喻によりいかに表現したかを考察した。

様々な臨床心理学の方法を折衷的に用いて教育相談プログラムを実施した結果として、学校に来ることに意味を見出せず休みがちだった生徒が、小集団の中で自分を見つめ直し、成功体験や賞賛の言葉を浴びながら過ごし、自分の変容を比喻によって肯定的に表現するようになっていった。比喻法で語られた自分の変容には、独自の世界が表現され、対象者全てにおいて肯定的な表現がみられた。

## 引用文献

飯島みどり. 2007. 「アトピー性皮膚炎の青年との心理療法過程」『心理臨床学研究』25(4), 454-463.

- 石川元. 2007. 「メタファーの解釈を通して描画の真髓を伝える」『臨床描画研究』22, 12-27.
- 蔵谷範子・服部紀子. 2002. 「比喩を用いた臨床看護師の「看護研究」に抱いている意識—第3報—  
比喩語の分析—」『東海大学医療技術短期大学総合看護研究施設年報』12, 30-37.
- 楠見孝. 2005. 「認知心理学から見た比喩」『日本語学』24, 5月号, 26-36.
- 松原達哉. 2003. 『生活分析的面接の理論と技法』(培風館).
- 谷口一美. 2003. 『認知意味論の新展開』(研究社).